

社会福祉学科 デイプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー		
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	<p>卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。</p> <p>また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。</p> <p>その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。</p>		
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。			
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。			
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。			
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法		
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会現象を多面的に理解することができる。	主に関人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	教養科目
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルシオリテラシー
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用
D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探求し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教 ライフデザイン基礎 西南学院史	
第二層 (専攻科目)			A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	
	A-2	社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論を修得し、知識と技能を身に付けることで、人と社会を結びつけ、人々の生活上の問題を理解することができる。	「基本科目」や「方法・技術科目」等を中心に、社会福祉の学びの基盤となり、共通する知識と技能を修得するために、社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論をミクロのソーシャルワークからマクロのソーシャルポリシーの範囲まで総合的に学習し、人、地域、社会を関連付け、人々の生活上の問題及び社会問題を理解することができるようになるための科目を1年次より段階的に配置する。	社会福祉学及び関連する分野の基本的な概念や理論に関する知識や技能を養成する科目において、論理的に理解できるよう論述する試験等によって、その学修成果を測定する。	ソーシャルワークの理論と方法
	B-2	人間の尊厳の価値を踏まえて社会福祉の学びの対象となる人と向きあい、人と社会を支えるための思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるよう判断することができる。	「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」「専門展開科目」等を中心に、社会福祉の基盤や共通した学びを踏まえ、社会福祉の対象となる児童、障害者、高齢者などの人々を理解し、その人たちが社会を支えるために必要な思考方法を身に付け、現実のものとして活用できるようになるための科目を1年次から3年次を中心に配置する。	人と社会を支えるために必要な思考力を養成する科目において、リアクションペーパーやケーススタディに応じた小テストなどを用い、その都度の思考力の伸長度を確認し、学修成果を測定する。	子ども家庭福祉論 障害者福祉論 高齢者福祉論
	C-2	社会的支援が必要な問題等を見出し、修得した資質・能力を主体的・創造的に活用して、多様な人々と協働しながら解決に向けて取り組むことができる。	「技術演習・実習科目」や「専門演習・卒業論文」等を中心に、社会福祉に関する諸問題を自ら発見し、実践現場に参画しながら関係するさまざまな人々と協働し、主体的に解決することができる能力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。	社会的支援に関する問題解決能力を養成する科目(演習、実習等)において、学修者の発表・実演や授業への参加態度、及び学修者による報告書等によって学修成果を測定する。	ソーシャルワーク演習 ソーシャルワーク実習
D-2	社会福祉の分野を中心に、学問の価値、基本原理、真理について、自律的に探求することができる。	「基本科目」「方法・技術科目」「専門領域科目」等を中心に社会福祉の分野での学びや社会活動において学問の価値・原理・真理について自律的かつ持続的に探求するために必要な科目を1年次から段階的に配置する。	各科目における小テスト、レポート研究発表や定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	社会福祉原論	